

1年生 老年看護概論 高齢者生活体験

「高齢者疑似体験を通して、高齢者の生活上の不自由さや気持ちを理解する」を目的に体験しました。



<食事>

手先の間隔が鈍く
小さいものはつまみ
にくい・・・

手に力が入らず
ペットボトルが
空けにくい・・・



<排泄>

膝が曲がらず便座が低いと
座りにくいなー

自分たちが無意識に
やっていることも
難しいんだな。

目が見えにくく拭き
残しがありそうで
不安・・・

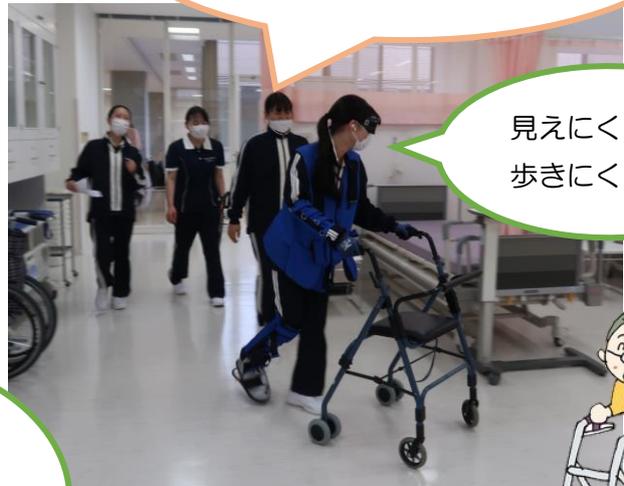


<活動>



こわい、こわい、
転んじゃいそう

視野が狭く障害物があったら
ぶつかって転んじゃいそうだ
ね・・・

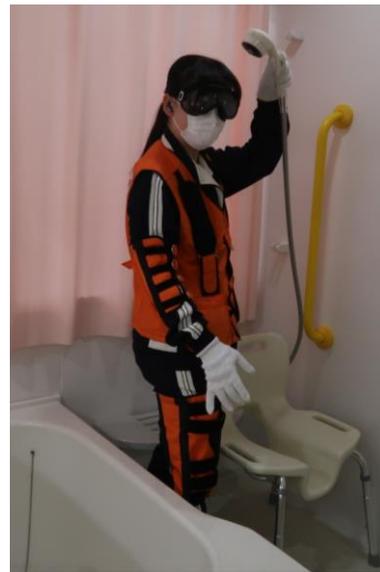
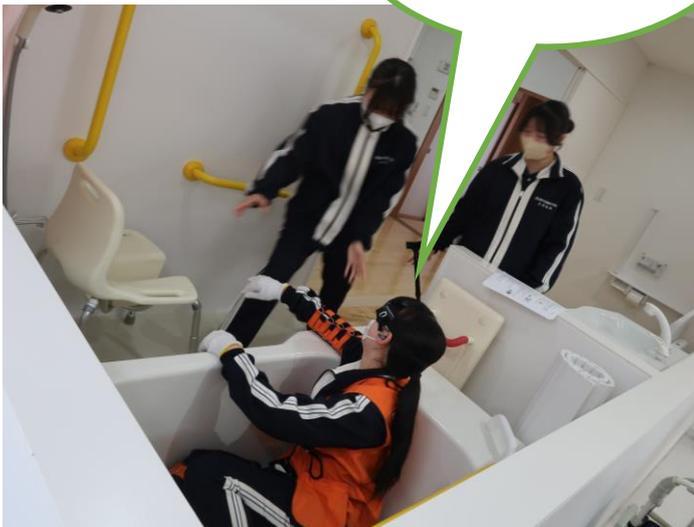


見えにくいし、
歩きにくいよ～



どうしよう！！
浴槽に入るのも大変
だったけど、出るの
も大変だよ～

<清潔>



<体験後の感想>

- ・疲労しやすく、不安やストレスが多くあるとわかった。少しでも負担が減らせるように工夫して関わりたい。
- ・高齢者体験は、身体が重く、肘・膝は曲がりにくく、声は聞こえずらく、少し動くだけで疲れてしまった。
- ・私たちが普段当たり前に行っていることでも、高齢者にとっては疲労や苦痛を伴うものであると感じた。急かすことなくその人のペースに合わせて接したい。
- ・手すりや杖を使ったり、時間をかければ人の手を借りずに自分で行えることも多いと気付いた。
- ・身体を支えたり、手を貸すだけでなく、相手の歩幅に合わせて歩いたり、ゆったりとした気持ちで接したい。

